

令和6年度 第一回企画展

信州-長野県-に

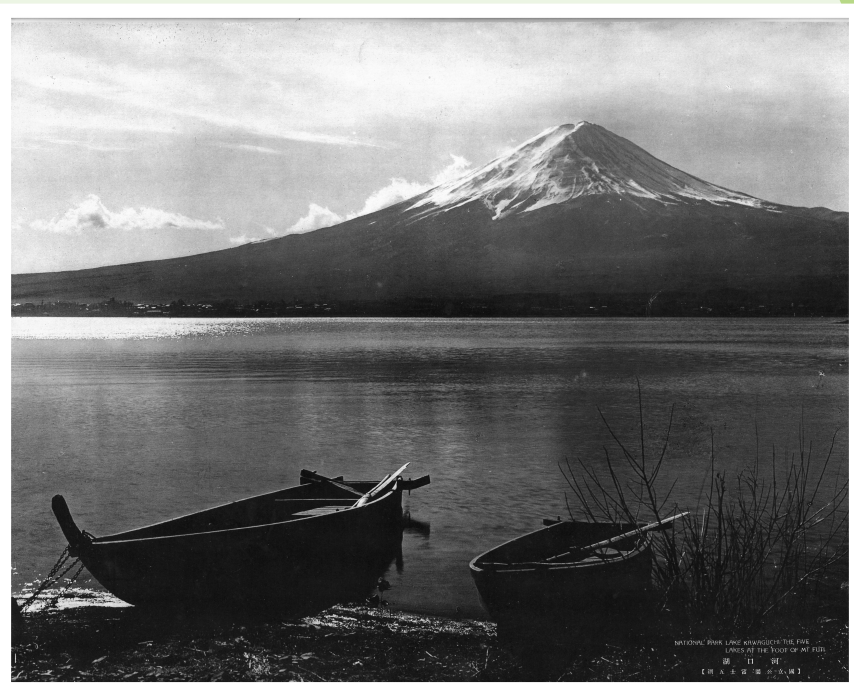
展開した富士信仰



令和6年

7月25日 木 ~

9月23日 月 / 祝



山梨県立富士山世界遺産センター

信州（長野県）においても、富士山は広く信仰されました。信州に檀那（得意先）をかかえたのが、川口御師（富士河口湖町河口）です。彼らは、牛王宝印（富士山宝印、護符）や「庚申」絵像（掛軸）などを携え、各地へ布教しました。長野県下や川口御師の末裔に伝わった資料を通じて、長野県に展開した富士信仰について考えます。



「庚申」絵像版木
寛政12年（1800）

寛政12年（1800）、安政7年（万延元、1860）の両度の庚申縁年に、こうした図柄の掛軸を川口御師は得意先に配布しました。信州の各地からも遺例がみつかっています。



個人（富士河口湖町河口）

庚申縁年奉加関係史料
安政7年（万延元、1860）

旧川口御師中村左近は、安政7年（万延元、1860）の庚申縁年にあたり、信州諏訪郡の得意先を訪問し、各村各戸より初穂を受けました。その折の帳簿類が伝えています。「庚申」軸など掛軸類の配布状況についても記録されています。



小笠原秀政制札（木船／仙元あて）

慶長19年（1614）

信州にも浅間神社が散見されます。「仙元」（浅間）の社名を記す古い事例です。

山下神社（長野県大町市）

*大町市指定文化財



川口御師の配布になることを明記しています。御師たちは、こうした宝印や神札を携えて、得意先をまわり、初穂を受けました。

牛王宝印（富士山宝印）

江戸時代

個人



個人（富士河口湖町河口）



小泉山（こずみやま）山頂の富士塚

長野県茅野市

山頂を掘り進めて火口を表現し、山体を富士山に見立て信仰しました。その中央には石祠が祀られています。

【そのほかの展示資料】

掛軸「庚申大神」〔旧安曇郡堀之内村中村家文書〕（長野県立歴史館）

掛軸「富士浅間大神」〔同上〕（同上）

「甲斐国志草稿」（富士河口湖町／個人）

川口御師配布「来迎御影」（富士河口湖町／個人）

■開催場所■

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
富士山世界遺産センター 南館 富士山ステーション

■観覧料■

無 料

■会期中の休館日■

8月27日（火）

■開館時間■

－7～8月－ 8：30～18：00

－9月－ 9：00～17：00

* 閉館の30分前までにご来場ください。

■問合せ先■

TEL 0555-72-2314 FAX 0555-72-2337

WEB <http://www.fujisan-whc.jp>



石灯籠――対一

宝暦7年（1757）

北口本宮や馬返には、信州の富士講によって造立された石造物が散見されます。この石灯籠は、伊那郡供野村（下伊那郡豊丘村）の富士講が奉納したものです。



原所在：北口本宮富士浅間神社（富士吉田市上吉田）